

各 位

会 社 名 株 式 会 社 タ ス キ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柏 村 雄
(コード番号：2987 東証グロース)
問 合 せ 先 財 務 経 理 部 長 狩 野 雄 一 郎
(TEL 03-6812-9330)

「新株式発行及び株式売出しに関するお知らせ」に関するご質問への回答

2023年2月24日に開示した「新株式発行及び株式売出しに関するお知らせ」について、アナリスト、メディア、投資家のみなさまからいただいた主なご質問とそれに対する当社の回答を、以下の通り開示いたします。

Q. このタイミングでの増資の決議となったのはなぜでしょうか？

A. 昨年より世界的なインフレ傾向や、それに対する各国の中央銀行の政策金利が上昇する傾向にあり、株式市場においては、決して楽観視できない局面が続いているものと認識しております。そのため、資金調達におけるマーケット環境としては難しいタイミングであると認識しております。

しかしながら、当社の足元の業績は良好であり、資本コストを上回るリターンを出し続けてきた実績がございます。今後も資本コストを上回るリターンを投資判断基準の一つとして積極的に成長投資を継続する方針であります。

マーケット環境の状況に関わらず、当社の中長期的な成長戦略上、機動的に投資できる資金を準備しておくことの方が、既存株主の皆様との利益につながるものと考え、判断いたしました。

Q. 今回の増資は、当初から今期計画に織り込まれていたものでしょうか？

A. 今回の増資は、2023年9月期の業績予想策定時において織り込まれておりません。

直近の業績と不動産市況などを鑑みながらこのタイミングでの増資の判断をいたしました。

Q. 以前にエクイティ・ファイナンスを実施したのはいつでしょうか？

A. 2020年の新規上場時となります。

Q. 約16%の希薄化となりますが、企業としてさらなる成長を見据えてのファイナンスでしょうか？

A. 当社のIoTレジデンス事業の投資判断は売上総利益のハードルレートを18%に設定しております。2023年9月期第1四半期実績では、ハードルレートを大きく上回り、結果として連結ベースの売上総利益率28.2%で着地しております。今回の増資によって得られた資金により、これまで同様当社で定めるハードルレートを上回ることを前提に、機動的に投資判断を行うことで、さらなる成長を目指してまいります。

Q. 銀行からの借入れではなく増資の選択となったのはなぜでしょうか？金利上昇のリスクなどを考慮されてのご判断でしょうか？

A. 現在のところ金融機関の姿勢に変更はなく、良好な関係を維持しておりますので銀行からの借入れも含めて様々な資金調達手法を検討いたしました。公募増資を選択した理由としては、株主様を広く募ることで、調達できる金額が大きくなる可能性があったことや、上場企業として、株式の流動性の向上および売買数の増加に繋がるものと考えたためです。今回の調達額のみであれば、借入れによる資金調達も可能と考えておりますが、当社は成長ステージにあり、今後も成長機会が見込めるタイミングで機動的に投資を実施するためには、財務体質を強化することも必要であると考え、総合的な判断として公募増資を選択いたしました。

Q. SaaS事業の進捗について教えていただけますでしょうか？

A. 土地仕入管理サービス「TASUKI TECH LAND」につきましては、サービス提供開始後、契約企業数の積上げを着実に進められております。また、AIによるVolume Check Engineを搭載した「TASUKI TECH TOUCH&PLAN」は、機能拡張の実装を進めており、今回の調達資金の活用によって、開発体制を強化し、事業成長を図ってまいります。

Q. 今回の増資は配当額に影響はありますか？

A. 2023年2月7日付「業績予想および配当予想の（上方）修正に関するお知らせ」で公表いたしました2023年9月期配当予想の1株当たり中間配当21円、期末配当22円について、今回の新株式発行に関する決議に伴う修正はございません。

Q. 大量保有株主である村上三郎氏は立会外分配・売出しを行わない方針でしょうか？

A. 村上三郎氏からは現時点において、いずれも行う予定はない旨の表明を確認しております。

Q. 中期経営計画の開示の予定はありますでしょうか？

A. 投資家のみなさまへ、わかりやすく、当社の事業状況や中長期的な成長戦略を伝えていく必要があると考えており、中期経営計画の開示についても検討しております。

以上